



堀小だより

12月号
No.585

発行責任者：校長 渡瀬 穰介

過去と他人は変えられない 変えられるのは未来と自分

校長 渡瀬 穰介

11月は児童虐待防止推進月間でした。二学期にも、また両親からの虐待を受けて、幼児が亡くなるという痛ましい事件がありました。このような事件を起こさせてはいけない、と公的機関も地域社会も取り組んでいますが、繰り返し再発しています。

そのたびごとに、虐待をした両親からは「しつけのつもりでやった」、「しつけの一環としてやった」というコメントが出てきます。

私はこの考え方というより、この考え方をどこかで許容している社会の在り方が虐待を生み出す大きな原因と考えています。未だに、「言うことをきかない子供に体罰はやむを得ない」、「体罰には何らかの効果がある」と信じている人々がいます。社会にこうした風潮が残っていることが、体罰、虐待を生み出す土壌になっているのです。

そもそも人間は、ただの動物ではなく意志によって行動します。人間の行動は、単なるパターン学習で定着するものではありません。苦痛という刺激が、正しい行動をしたいという前向きの動機になることは、一切ありません。大昔に行われていた鞭打ち刑のような残虐な刑罰も、犯罪者を立派な人間に更生させたということはありませんでした。罰は罪に対する報復、懲罰にすぎません。繰り返しますが、暴力や暴言などのマイナスの刺激が、人間の正しい行動を生むというエビデンスは一切ありません。

ところが、実際には多くの人が成長の過程の中で、昔からの風習である体罰、暴力を受けてきています。そして自分が、そうした罰を受けたにもかかわらず「きちんと」成長した、という事実をもって、体罰、暴力も程度によって、あるいは「愛情があれば」有効だ、と思い込んでしまいます。

実際には体罰で良い行動をしようと動機づけられたのではなく、それ以外の、例えば抱きしめであったり励ましであったりが有効であったにもかかわらず、その情報は忘れられているのです。なぜなら、体罰を受けた心の傷はあまりにも大きく、抱えていくには辛すぎるからです。それゆえに、自分の受けた体罰には意味がある、効果があったという正当化を図る心理（正常性バイアス）が働いてしまうのです。暴力を受けている子供が親や教師をかばったり、DVを受けた妻が夫を擁護したりすることがあるのはそのためです。

虐待を行った親は、そうした間違った社会の常識の中で育ってしまっています。結果として、それが正しいと信じてしまっています。

虐待をした親の罪であることは間違いありません。守れなかった児童相談所や学校の落ち度であることも間違いありません。しかし、社会や報道に必要なことは、親や学校、行政を責めることではありません。昨今のSNS炎上のように「許せない!」と怒鳴りつけるような追い込み方も、実は虐待や暴力と同じ根っこがあります。

私たちがすることは世の中に、体罰や暴力、恫喝では人は絶対変えられない、という共通理解を作っていくことです。そして、それぞれの立場で、誤った考えをもって育ってしまった親たちを支援することが、根本解決に至る唯一の道なのではないでしょうか。

過去と他人は変えられない。未来と自分は変えられる、と言います。他人が何かをした、何かをしなかったと非難するのではなく、自分がいま何をするか、です。

堀之内小の少人数指導について

堀之内小学校では、3年生以上の学年で、算数の少人数指導を行っています。少人数算数担当の私が指導者として加わることで、グループの数が学級数+1となり、通常の数よりも少ない人数で指導ができるということで、少人数指導と言われていま

す。
少人数指導のグループの分け方はいろいろありますが、東京都で行われる少人数指導は習熟度別指導を行うことになっています。事前に行ったプレテストや関係のある単元のテストの結果を見て、学年全体で習熟度別のグループを作ります。

$$\begin{array}{r} 12 \\ \times 34 \\ \hline 408 \end{array}$$



★習熟度別グループとは

体育で、跳び箱が得意な子、走るのが苦手な子がいるように、学習する内容における習熟度（前の学年までの内容等をどれくらい身につけているか）でグループを作ります。苦手な子のグループ（じっくりコース）は人数を減らして、復習をしながら学習を進めます。得意な子のグループ（チャレンジコース）は人数を増やして、これまでに学習したことを使って、自分の力で学習を進めていくことができるようにします。得意なところもあり、不得意なところもある子のグループ（ぐんぐんコース）は、両方のグループの間の人数で、苦手なところを復習してから、できる限り自分の力で学習を進めていくことができるようにします。苦手な子のグループも学習して得た力を使って、自分の考えを書くことができるようにします。進む道筋に多少の違いはあっても、めざすゴールはどのグループも変わりはありません。3つのグループは単位ごと

★少人数指導を行う中で

他学級の子供たちの交流もあり、学級での学習とは違った雰囲気です。学級では見られない子供たちの良さを見つけることもできるので、その都度担任の先生に伝え、子供たちががんばりを相互で認め合えるようにしています。授業の中では、「なるほど」と子供たちが感じられる場面を多く設定できるよう心がけています。「算数はおもしろい」という気持ちがあれば、学習への興味が湧き、学習への意欲が高まるからです。そうすることで、中学校の数学へと無理なくつなげていくことができます。

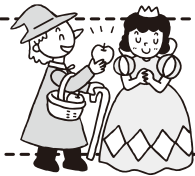
堀之内小では算数の朝学習を行っています。毎朝7時50分から8時15分まで少人数教室で学習することができます。わからないことを聞きにきたり、終わっていない問題に取り組んだり、子供たちの様子は様々ですが、とても気持ちのいい時間を子供たちと過ごしています。

保護者の方で、算数の少人数指導について何かわからないことがありましたら、少人数教室にいらしてください。お待ちしております。

（算数少人数 須田 由美子）



学芸会の思い出



1年生

- ★ぼくは、やんすけをしました。うしろからはしるのがせいこうして、みんなをびっくりさせることができました。せりふを大きなこえでいえました。
- ★わたしは、ちょうちょやくをしました。れんしゅうでは、せりふをほんばんでいえるかふあんでしたが、はっきりゆっくり大きなこえでいえました。
- ★わたしは、うさぎをしました。大きくゆっくりせりふをいうことをがんばりました。三ねんせいになったら、わたしもおにいちゃんみたいにアラジンになってみたいです。

2年生

- ★じぶんの出ばんの前はきんちょうしたけれど、スペースれんぼうやくはたのしかったです。れんしゅうよりもどきどきしました。
- ★わたしは、学ばい会でその場に合ったセリフの言い方に気をつけました。みんながいたので、あんしんして大きな声が出せました。
- ★学ばい会でできるようになったことは大きい声が出せるようになったことです。本ばんで大きな声を出せてうれしかったです。

3年生

- ★ぼくは、ヘンリーおじさんの役をしました。声をおじさんっぽい感じにすることや、しぐさをつけることをがんばりました。
- ★ぼくは、かかしの役でした。大きな声でセリフを言うことをがんばりました。かかしの気持ち伝わるように、しぐさをくふうしました。

4年生

- ★ぼくは、歌が多い役だったので、家での練習では歌が上手な友達のことを思い出したり、いろいろな人に聞いたりしながら練習しました。一つ一つのセリフを大切に演技ができました。

- ★今回の学芸会は堀小初の学芸会でした。楽しく学芸会のまくをとじる事ができました。ぼくにとって一生忘れられない最高の学芸会でした。

- ★ぼくは、悪い魔女の役で、感謝や思いやりなどの言葉を聞いて苦しむ場面でしたが、最初は苦しむ演技が上手くできませんでした。同じ場面の友達と何度も練習し、大きく動くことを意識して演じました。

5年生

- ★ぼくは、学芸会で演じた「走れメロス」から、仲間同士で信じ合える心が大切ということを学びました。小学校生活最後の学芸会だったけれど、とてもよい演技ができたと思います。
- ★この学芸会で学んだことは、こつこつしっかり真剣に取り組むと、笑える時がくることです。みんな、終わった後笑っていたので、最後の学芸会が成功したと思いました。
- ★ぼくは学芸会を通して、どんなことでもやればできることを学びました。あきらめずにがんばることを大切に、生きてみようと思います。最後の学芸会が「走れメロス」で良かったです。

6年生

- ★本番を終えて、私は、今まで努力してきた良かったと思いました。いろんな先生たちが一生懸命準備してくださった劇を、私たち6年生が一生懸命演じたからこそ、素晴らしい劇になったと思います。
- ★「アラジン」を通して、一つ一つの台詞を一人一人が演じて劇が完成したこと。周りとかわせたことでダンスを踊ることができたこと。みんなとの団結、そして協力することの大切さを学びました。
- ★学芸会を終えて、みんなでやることの大切さについて改めて学びました。学芸会は一人ではできず、一人一人の役があるからこそ学芸会が成り立つのだと思いました。

12月の行事予定



日 曜	学 校 行 事	〈PTA・地域行事〉	日 曜	学 校 行 事	〈PTA・地域行事〉
1 ㊥			17 火	4時間授業	
2 月	委員会		18 水		
3 火	保護者会 (5・6年)		19 木		SC
4 水	学校運営協議会		20 金		
5 木	保護者会 (1・2年) 安全指導	SC	21 ㊦		
6 金	保護者会 (3・4年)		22 ㊥		
7 土	学校公開 3時間授業 地域清掃 3校時：学校保健委員会		23 月		
8 ㊥			24 火		
9 月	クラブ		25 水	終業式 給食終 4時間授業	
10 火	避難訓練		26 木	冬季休業日始	
11 水			27 金		
12 木		SC	28 ㊦		
13 金	理科出前授業 (3年)		29 ㊥		
14 ㊦			30 月		
15 ㊥			31 火		
16 月	たてわり遊び				

※12月の給食費引き落としは、12月10日(火)です。口座の残高をご確認ください。

※SC……スクールカウンセラー来校日

12月の生活目標

2学期のまとめをしよう

12月は、次の5つに重点を置いて指導します。

- ・自分の物を大切にしよう。
- ・みんなで使うものを大切にしよう。
- ・使った物の片付けをきちんとしよう。
- ・自分の物にはっきりと名前が書かれているかを確かめよう。
- ・教室のすみずみまできれいにしよう。

今年も残り1ヶ月となりました。1年間のまとめとして、今月は、普段使っている身の回りの物を大切に扱っているか振り返る活動をしたと思います。また、自分の物はもちろんのことみんなで使うものや場所も大切に作る心を育てるため、掃除の時間に重点を置き指導します。



さて、11月に東京都の「ふれあい月間」(6月/11月/2月)に合わせ、本校においてもいじめ調査をしました。日頃から、いじめの早期発見・事案対処を図るとともに、未然防止、課題の改善につながるよう教職員一丸となり指導にあたっています。その中で、子供たちの言葉遣いが課題となりました。

誰でも優しい言葉をかけられると嬉しく、乱暴できつい言葉を言われると悲しい気持ちになります。さらに、高学年は他の学年の手本としても正しい敬語を話すことが求められます。

相手の気持ちを考えた言葉遣いは、温かな人間関係を育みます。温かな心と言葉は繋がっているということが子供たちに定着するように、引き続き声をかけていきます。ご家庭においても、お子様と言葉遣いについて話をしてみてください。

(生活指導主任：梅津 恵美子)